

## 埼玉県租税教育推進協議会長賞

「税について」

岡部町立岡部中学校 二年 春山 直也

今年の六月に僕の家では、おじいちゃんとおばあちゃんが続いて亡くなった。急なことでとても悲しかった。ある夜、お父さんとお母さんが畑のことで何か言っていたのが聞こえた。

「世話ないよ、相続の対象外だよ。」とお父さんが言った。ぼくは何の事だかわからなかったの、お父さんに聞いてみると、亡くなったおじいちゃんの土地などをもらうと、税金がかかるのだと言う。なんのために税金を払うのだろうか。税金とはどういうものなのか、調べてみようと思った。

ぼくはまず、インターネットで税の学習コーナーを開いてみた。日本の税金は、飛鳥時代の大化の改新から始まったそうだ。国に納める国税と都道府県や市町村といった地方公共団体に納める地方税に分けられると言う。給料から差し引かれて、納める税金と、確定申告を行って納める税金がある。消費税や酒税、たばこ税などの物品の消費やサービスの提供などを対象として課税される税金や、相続税や固定資産税などの資産を対象として課税される税金がある。

税金とは、すべての国民が健康で豊かな生活がおくれるようにするためにみんなが出し合う会費といえる。

国の収入の約50%は税金で占められて、国はすべての国民のために税金を使っていると言う。ぼくたち中学生一人につき一年間に約九十二万円の教育費が使われている。国の歳出の内、より豊かな社会を作るために社会保障関係費が最も多く占めています。豊かな生活環境を作るために使われる公共事業関係費は、歳出の約一割を占めているそうです。

日本の国民負担率は約36%でヨーロッパ諸国に比べて低い水準だそうです。これは社会保障の負担率がヨーロッパ諸国より低いと言う。

高齢化社会にむかって税金のはたす役割を正しく理解し、社会保障と税負担のありかたについて、真剣に考えていく必要があると思います。そして大事な社会と地球を守っていく必要があります。

ぼくは、税金は大事なものだなとつくづく思いました。